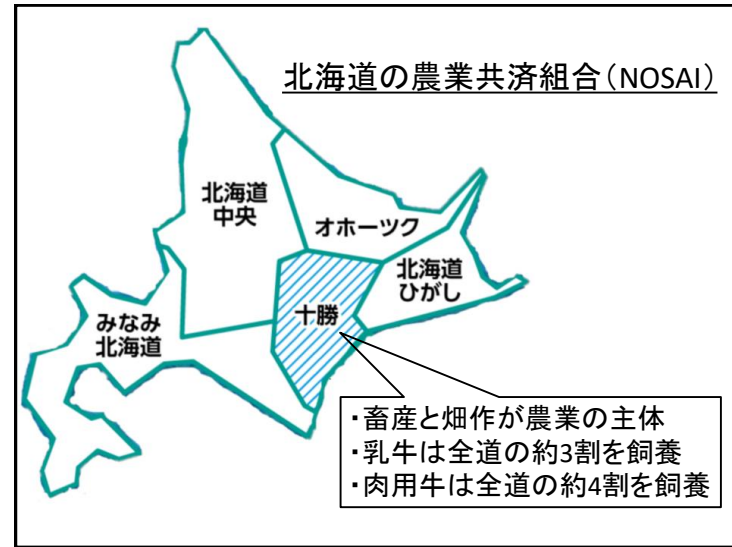
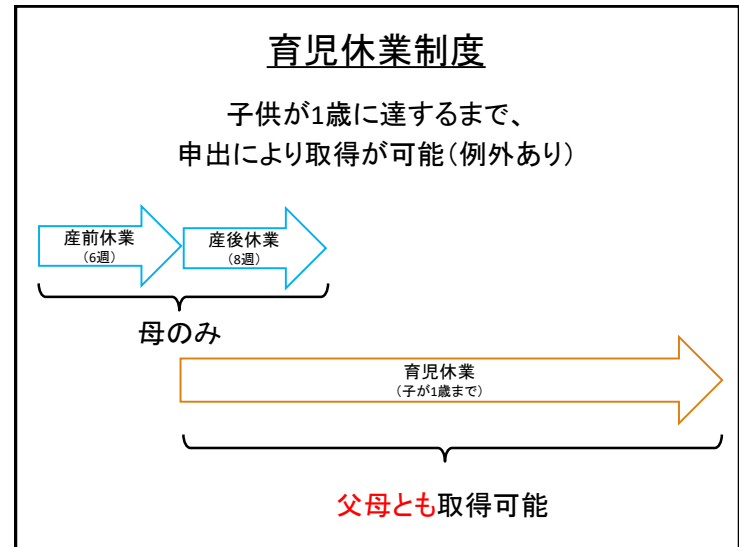
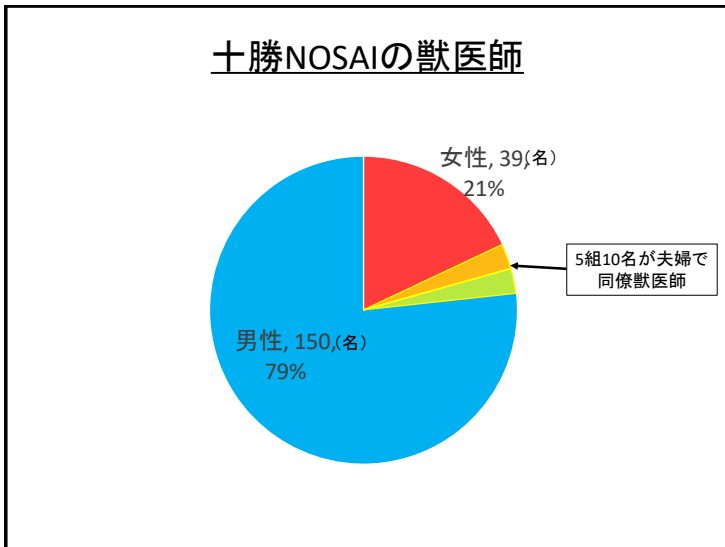


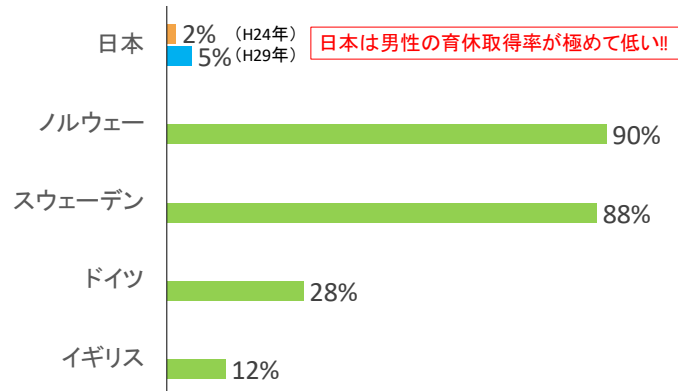
# 共働き獣医師夫婦のバトンタッチ型育児休業 男性側経験談

(取得の有無が及ぼす影響と職場環境について)





### 先進国における男性の育児休業取得率



### 男性の育休取得が少ない理由

- ① 男女の役割の固定化
- ② 経済的問題
- ③ 職場環境

### まだまだ少ない男性の育休取得 獣医師に限れば、もっと少ない？

演者は長男出生後に一度、  
育休を経験しただけですが、  
その経験談を紹介致します

### 育休取得期間

夫 (演者)	フルタイム	4/1	9/13	フルタイム
		← 育児休業 →		
妻	7/14出産	9/8	3/31	短時間勤務 (1時間短縮)
	← 産後休業	← 育児休業	← 時間外労働制限	

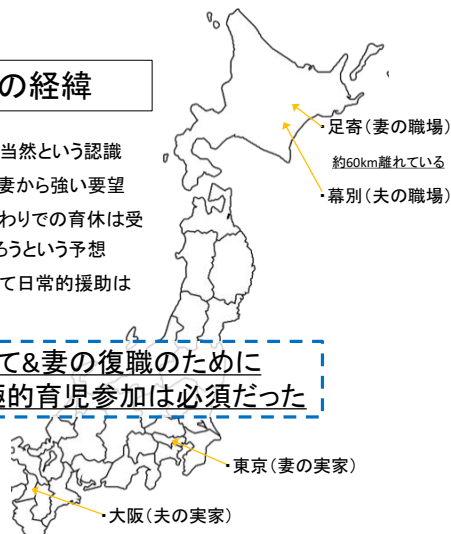
長男が約8か月～1歳2か月まで育児休業を取得

※パパママ育休プラス制度を利用

## 育休取得までの経緯

- ① 育児は夫婦で共に行って当然という認識
- ② 私の育休取得について、妻から強い要望
- ③ 妻は同僚なので、入れ替わりでの育休は受け入れてもらいやすいだろうという予想
- ④ 両親は遠方に居住していて日常的援助は困難

子育て&妻の復職のために  
夫の積極的育児参加は必須だった



## 育休取得の不安

- ① 男性獣医師の育休取得は前例なし
- ② 獣医師のキャリアが途切れる
- ③ 育休取得が同僚の退職と重なった
- ④ 診療所の人員が補充されるか不明



パタハラはなかった

(パタニティハラスメント: 父親の育児参加への上司・同僚からの侵害する言動)

人員は取得と同時に補充された

(私は復職と同時に退職者の補充として居住地近くの診療所へ転勤)

## 育休中の家事・育児

- ✓ 妻は時間外労働を制限したフルタイムで復職
- ✓ 長男は離乳食を食べていたが、まだ深夜に母乳を飲むこともあった



私がほぼすべての家事・育児を担当した



- ✓ 家事・育児にはすぐ慣れた
- ✓ 料理や長男の成長を楽しんだ
- ✓ 大きな悩みはなかった



- ✓ 育休取得中、社会からは孤立した感覚
- ✓ あまり社会的ではないので  
子育て支援センター等にはいかなかった



約6カ月の育休だったので、  
あまり気にしなかったが、  
もっと長期であれば、問題に  
なったかもしれない

## 復職

- ✓ 9月半ばの復職を予定していた
- ✓ 復職2カ月前に保育園が満員で預かってもらえないかもしれないことが判明
- ✓ 最終的には関係者の調整のおかげで入園

## 復職後の働き方

- ✓ 私は少し近い診療所へ転勤
- ✓ 診療技術にブランクは感じなかった
- ✓ 妻はフルタイムから短時間勤務へ(終業1時間短縮)
- ✓ 家事・育児は分担したが、職場が保育園から近く、  
且つ短時間勤務の妻の方が多くなった

## 収入

### デメリット

- ✓ 育休中は無給
- ✓ 休業分の期末勤勉手当・定期昇給はなし

### メリット

- ✓ 育児休業給付金(賃金の50%)が雇用保険から支給  
※現在6ヵ月間67%
- ✓ 翌年の住民税が減額(給付金は非課税のため)
- ✓ 社会保険料の免除

総合的には大きな収入の減少にはならない

試算では手取り収入は休業前の約8割



次男と三男出生時の働き方

夫 (医師)	フルタイム			
妻	短時間勤務 (1時間短縮)	産前産後 育児休業 (次男10ヵ月まで)	短時間勤務 (1時間短縮)	産前産後 育児休業 (三男1歳まで?)

- ✓ 育休を取得しなくても育児は出来ると感じた
- ✓ 職場が繁忙であった(バタバタがあったわけではない)
- ✓ 獣医師のキャリアを途切れさせなかった



- ✓ 三男の出生は次男が育休退園とならないように調整した
- ✓ 妻からは短時間勤務の要望があったが、私が所属する診療所が2名欠員の緊急事態だったこともあり決断できなかった
- ✓ フルタイムでも頑張ればなんとかなると思った!



**妻には多大な精神的負荷となった**



## 現在の男性獣医師の育休取得状況

	育休取得日数	取得時期	妻の就労
演者	165日 (5か月半)	妻の復職後	あり
A	121日 (4か月)	出産直後	なし
B	72日 (2か月半)	妻の復職後	あり
C	105日 (3か月半)	出産直後	あり

私が育休を取得した後、3名の男性獣医師が育休を取得した聞き取りしたところ、3名とも前例があったことは後押しになったと回答

## まとめ

- ✓ 初めての子供の時は育児の事が全くわからず不安が大きかったため、育休を取得したことは良い経験となった
- ✓ 私が育休を取得した8~1歳2カ月は、預けても問題ないと感じた

## 反省

- ✓ 子の人数が増えてくると、在宅時に育児を頑張れば良いという単純な認識では、妻の精神的負荷を和らげることは出来なかった
- ✓ 次男・三男出生時には、妻をサポートする形で出生直後に育休を取得するべきだった

## 最後に

- ✓男性が想像する以上に女性は出産前後に肉体的・精神的負荷を受ける！
- ✓男性の育休取得は絶対的な「答え」ではないが、男性が意識的に積極的に育児に取り組まなければ、妻の就労はおろか、夫婦関係の破綻を招きかねない！